

令和6年度 桜江中学校学校評価 振り返り

中期目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策			自己評価	改善の方向性
			だれが	いつ	どのように具体的に取組むか記入	達成状況	
（一）課題の解決に粘り強く向かっていく力の定着（知）	授業改善と教科指導の充実	・校内研究テーマに基づき、授業改善及び指導の工夫がなされている。	全職員	年間	・校内研究テーマに基づき、年間に一人一授業を公開し、評価・改善を行う。	・全教職員が一人一授業を公開し、授業後に研究部と管理職、授業者で協議を行うことができた。 ・ICTの活用を進めることができたが、効果的な活用になっているか検証が必要。	・授業公開と事後協議を継続する。 ・授業公開後のコメント用紙と協議内容を全職員で共有する。 ・授業後の協議を継続する。
	言語活動の充実と環境の整備	・各教科及び行事等において、言語活動の充実が図られている。 ・言語活動の充実に必要な環境が整備されている。	全職員	年間	・各教科及び行事等において、言語活動を取り入れる。 ・学習者用タブレットや学校図書館を活用する場を計画的に設定する。	・全教科や行事で言語活動を取り入れ、生徒は言語活動を通して考えを深めることができた。 ・タブレットや学校図書館の活用を計画的に実施できたが、図書館活用は教科間に差がある。	・言語活動を継続して行う。 ・タブレット活用が学びを深めているか検証し、効果的な活用方法を全職員で共有する。 ・図書館の本を教室に持って行って紹介したり、短時間でも使用したりする。
	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援体制の構築	・一人一人の生徒が「できる」「わかる」実感や達成感をもてるようきめ細やかな支援や指導を行っている。	全職員	年間	・職員会議で情報を共有し、生徒の困り感や実態把握を行い支援方法を検討する。 ・通級指導教室と連携したり、江津市巡回教育相談を活用するなどして、個に応じた支援を行う。	・情報共有はできたが、具体的な支援方法の検討や協議の時間を十分にとることはできなかった。 ・通級指導教室との連携や教育相談の活用を個に応じた支援につなげることができた。	・支援の方法の検討や協議を計画的に行う。 ・通級指導教室との連携、教育相談の活用を継続し、個に応じた支援を行う。
	家庭学習の充実と基礎・基本の定着	・授業に関連した自主学習や宿題等の家庭学習課題が計画的に示され、基礎・基本の定着と学習習慣の定着が図られている。	全職員	年間	・家庭学習ノートの取り組みについて職員間で共有する。全校で揃えるところと、学年部の実態に応じて柔軟にするところの基準を明確にする。 ・授業と関連した模範的な家庭学習ノートについて職員会で情報共有し、生徒に周知する。 ・学年の学習状況について定期的に情報共有し、課題と効果的な指導方法を協議する。	・多くの生徒が取り組んでいるが個人差がある。 ・職員会議での取組状況を学年部ごとに行い、全職員で共有した。 ・家庭学習をノートにするかタブレットでするかということについて検討が必要。	・各学級のホワイトボードを見て、教科担任が宿題の量や時期と締め切り日を調整する。 ・1月中に見本となる家庭学習ノートを集める。まず長期休業中の課題にタブレット学習を取り入れ、家庭学習ノートの量を調節し、学習効果を検証する。

令和6年度 桜江中学校学校評価 振り返り

中期目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策			自己評価	改善の方向性
			だれが	いつ	どのように具体的に取組むか記入	達成状況	
(2) 互いに認め合い、共に生きていく力 (徳)	互いを認め合い、支え合い、高め合う生徒集団の育成	・主体的で協力的な生徒活動ができて いる。 ・生徒理解に基づき積極的かつ組織的な生徒指導を実践している。	全職員	年間	・行事での縦割り班や生徒会活動を通して、他者と関わり主体的な活動をする場面をつくる。 ・アンケート、面談、日頃の生徒観察等により実態を把握、職員間で情報共有を行い、いじめの未然防止に努める。一部の職員だけでなく組織で動けるように報告、連絡、相談を徹底する。 ・職員会で定期的に情報交換を行い、学習規律の確立など生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境をつくる。 ・各授業等を通し、全ての生徒にとって、自らの居場所や他との絆を実感できる教育活動をすすめる。	・具体的な方策の通りに組織的、計画的に取り組むことができた。情報共有に特に力を入れた。	・評価の観点に基づき、組織的に積極的な生徒指導を行う。生徒の変化や困り感を見逃さず、早期に対応することに努める。学習規律や安心・安全な環境づくりについて更に力を入れていきたい。 ・学力向上支援員、特別支援教育支援員との情報交換も密に行いながら生徒の様子を把握する。
	人権・同和教育の推進	・全体計画を基に、人権・同和教育の推進に取り組んでいる。	全職員	年間	・参加型の研修を複数回実施し、職員の人権意識を高める。 ・日常生活にある人権課題について、授業や職員会等で話題にし、人権感覚を磨こうとする雰囲気をつくる。 ・人権月間においては、講演会や集会を中心とした人権教育に全職員で重点を置いて取り組む。 ・年間指導計画をもとに、各学年部を中心に人権に視点をあてた授業を継続的に行う。	・7月と11月の全校での人権学習を参加型で実施できた。各学年部や教科・領域においても人権教育に取り組んだ。 ・学んだことを日常生活につなげ、相手の立場に立って行動することについて、課題が残る。	・年2回の全校人権学習と各教科・領域での人権学習を継続し、3年間で様々な人権課題について学ぶことが出来るようにする。 ・年間指導計画(題材表)について、各学年部で振り返る時間をもつ。 ・日常生活における生徒の人権感覚について、課題に感じることを職員間で共有し、全教職員で指導する。
	インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進	・インクルーシブ教育の視点に立ち、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が図られている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、支援計画に基づきながら組織的に対応が図られている。	全職員	年間	・すべての生徒が学習の場を共にすることで理解を深める。(交流学級での授業や給食は清掃活動、学校行事や部活動など) ・生徒の様子を丁寧に観察し、職員間での情報共有をしっかりと行い、必要に応じて支援方法の検討や外部機関との連携を図り、生徒支援につなげる。	・通常学級と特別支援学級の生徒が共に学習したり、学校生活等で良い関係で交流できている。 ・職員会議等を通じて、生徒の情報共有ができ、生徒の困り感を早期に把握して外部機関からの支援につなげることができた。	・小中の連携がしっかりできており、入学時の保護者との連携も行っているため、スムーズに学校生活が過ごせているので今後も継続する。 ・職員会議等で生徒の情報共有ができていたので、継続する。生徒の困り感については、より細かな状況把握が必要であり、さらに教員の感度を高める必要がある。
	道徳教育の充実と体験活動の推進	・「考え、議論する道徳」に取り組むことで、人間としての生き方について考えを深めさせている。	全職員	年間	・自分の考えを表現し深められるような言語活動の場を多く設定したり、発問の工夫をしたりする。	・個人で考える時間、他者と意見交流や議論をする時間を設定し、対話的に学習をすすめることができた。	・教員間で情報共有を重ねていき、「考え、議論する道徳」のために効果的な工夫や手立てを共有していく。

令和6年度 桜江中学校学校評価 振り返り

中期目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策			自己評価	改善の方向性
			だれが	いつ	どのように具体的に取組むか記入	達成状況	
(3) 健やかな体の育成(体)	学校保健、食育の推進と望ましい生活習慣の確立	・メディアコントロールについての取組を生徒会活動を中心に継続的に行っている。	保体部	年間	・長期休業明けの1週間(学期に1回)でメディアコントロールウィークを実施し、保体部の生徒が説明や配付、結果の集計をすることで、生徒が主体的に取り組めるようにする。	・定期的にメディアコントロールウィークを計画・実施することができた。また、専門部の活動として、メディアコントロールウィークの周知・集計・掲示を行うことができた。	・生徒や家庭に向けて、メディアコントロールの呼びかけを継続し、保護者と連携しながら効果的なメディアの使い方を考えていく。 ・定期的に生徒に向けてメディアの使い方・ルールについて話をする機会をつくる(身体測定・生徒会朝礼等)。 ・学年懇談会や学校保健委員会等、保護者が集まるときに、各家庭でのメディアの使い方やルールについて話をする機会をつくる。
		・食育の授業を栄養教諭と行い、保護者と生徒に望ましい生活習慣について啓発をしている。	全職員	年間	・栄養教諭と連携し、栄養指導を各学年に合わせた題材で行うことで、生徒が自分のこととして栄養について考えられるようにする。 ・栄養指導の様子を、保健だよりやHPで保護者にも発信する。	・栄養教諭と連携し、各学年の特徴や傾向に合わせた授業を計画・実施することができた。 ・栄養指導の様子や内容について、保健だよりやHPで保護者・地域に周知することができた。	・学校保健委員会等で、生徒だけでなく保護者に対しても啓発できる機会をつくる。
		・外部講師を積極的に活用した授業を行っている。	全職員	年間	・情報モラル講演会やバースデープロジェクトで外部講師を活用し、生徒や保護者がより専門的な知識を得る機会を設ける。	・学校保健委員会やバースデープロジェクトで、外部講師と連携し講演を計画・実施することができた。	・今後も外部講師の活用を継続する。
		・情報モラル教育の充実を図っている。	全職員	年間	・各教科や総合的な学習の時間等において、情報モラルに関する指導を随時行う。 ・タブレットの使い方等について生徒だけでなく保護者にも情報を提供し、連携して情報モラル教育をすすめる。	・教科、学活等で情報モラルについて考える時間を計画的に設定することができた。 ・PTA総会や懇談の時間に、家庭でのメディアの使い方について呼びかけを行った。	・自らのメディアとの関わり方について、生徒同士が意見交換できる機会をつくる。 ・今後も保護者への呼びかけを定期的に行う。
	安全教育の推進	・防災意識の向上を図っている。	全職員	年間	・学期ごとに計画的に避難訓練を実施する。	・1学期は小中合同引き渡し避難訓練を計画し、実践的な取組ができた。2学期は火災避難訓練を行った。	・来年度も継続して計画的に実施したい。特に小中合同訓練については今後も具体的な動きを想定して役割分担を行いたい。
		・安全意識の向上を図っている。	全職員	年間	・1年生を対象にした交通安全教室、春と秋の交通安全週間に合わせた登校指導を行うことで、交通安全について意識をもたせる。 ・朝終礼や学活を用いて、普段の生活での安全について考えるきっかけを作る。	・具体的方策について、各学年の協力を得て達成することができた。今年度、北九州の事件を受け、見守りを行った。	・天候(雨や雪など)や事故・事件などを把握し、必要な情報の提供、見守り、安全への啓発を行い、意識を持たせる。 ・今後も安全に対して臨機応変に対応していく。
	体力づくりの習慣化と体力向上	・体育の授業を通して、計画的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図っている。	体育主任	年間	・3分間走、長距離走の計測を継続し、持久力を高めたり、各単元で運動量を確保したりする。 ・技能向上の方法を考える活動を取り入れ、自分に適した動きを見つける指導を行う。 ・全校で運動に親しむ機会を各学期に1回設定する。	・運動量の確保やペアワークや話し合い・教えあいを入れながら、基本技能の習得を行った。全校での取り組みも年3回を確保したが、時程の調整が非常に難しかった。	・体力テストの結果を基に、本校の数値が低い項目に着目し、授業でも取り扱っていきたい。
	勤労意欲の向上	・勤労への意欲がもてるような体験をさせる。	全職員	年間	・総合的な学習の時間を中心に、地域のことを学習したり、職業に対する地域の人の思いを聞いたりすることで、働くことの意義や役割について考えさせる。	・見学や体験活動を通して、地域のことで、学習をしたり、地域の方の思いを聞いたりすることができた。そして、今の自分にできることを考えることができた。	・引き続き年間指導計画に沿って、学年のテーマに合わせた体験活動を計画したり、講話の内容について事前に打合せをしたりする。

令和6年度 桜江中学校学校評価 振り返り

中期目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策			自己評価	改善の方向性
			だれが	いつ	どのように具体的に取組むか記入	達成状況	
(4) ふるさとを愛する心の醸成(社)	ふるさとへの愛着と誇りの醸成	・ふるさとへの誇りを育てている。 ・自己肯定感や、他者の立場や考えを尊重し思いを受容する力を育てている。	全職員	年間	・ふるさとの良さや課題、未来を考える機会を設定し、ふるさとへの理解や愛着が深められるようにする。 ・すべての学習や活動の中で、他者の立場を考え尊重する思いを育てるとともに、受容されることで自己肯定感を高める。	・地域の「ひと・もの・こと」を活用した活動を通して、地域や産業の課題について考える機会の設定ができた。 ・意見交換を通して、受容された経験をすることで自己肯定感を高める一助になった。	・今後も地域の「ひと・もの・こと」を活用しつつ、年間指導計画に沿って授業を展開する。 ・学年や学校全体に、他者を受容する雰囲気作りをより一層行う。 ・学校での活動や授業をさらに地域に発信し、参画する機会を増やす。
	ふるさと・キャリア教育の推進	・自己理解を深めさせるとともに、将来像を考えさせている。 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせている。	全職員	年間	・総合的な学習の時間や学活で自分の未来を考えたり、地域講師の地域への思いを考察したりする中で、自分の将来の姿とふるさとの未来に関連させて考えられる授業を設定する。 ・キャリアパスポートの活用を通して、今の自分を振り返り、自分のキャリアを考察する機会を設定する。	・体験活動や地域の方の思いを聞く活動を通して、地域の良さを知るとともに課題を設定したり、課題解決の方法を考えたりすることができた。 ・キャリアパスポートに目標を記入することで、自分の役割を考えて行事に積極的に参加することができた。	・今後も偏りのないように体験活動を計画したり、地域の方の思いを聞く機会を計画したりする。 ・キャリアパスポートの活用を継続し、自分自身を振り返り、さらなる成長を促せるようにする。
	積極的な情報発信による異校種間や家庭・地域との連携	・家庭・地域に向けて、教育活動、生徒の様子等の情報発信に努めている。	全職員	年間	・各種たより、HP、メール配信等を通して、学校の方針や教育活動、生徒の様子等を保護者、地域に発信する。 ・月1回授業公開日や保護者が参加できる行事を設定する。	・定期的に学校だよりやHP、学年(学級)だよりなどを通じて情報発信できた。HPでは毎週「今週のトピックス」を、学校だよりは月2回発行し、月末には桜江町全戸配付した。 ・毎月1回授業公開日とし保護者が生徒の様子を参観する機会を定期的に設けた。	・今後も伝える内容を工夫しながら学校の様子を細やかに発信する。 ・より多くの保護者が参加できるよう、計画的に案内を出し、積極的によびかける。
	「社会に開かれた教育課程」の実現	・家庭や地域とビジョンを共有し、育成したい生徒像を共有している。 ・地域のことを考え、地域のために行動・実践する場を充実させている。	全職員	年間	・HPや学校だよりを通して生徒の活動を知らせるとともに、活動を通して育てたい生徒像を発信、共有し、職員だけでなく保護者や地域の方にも「チーム桜江中」の一員として積極的に学校づくりに参画していただく。	・定期的にHPを更新したり学校だよりを配付したりすることができた。そして、各学年の総合的な学習の時間を中心に、地域の事業者やてごねっと石見と連携し、計画・実施・事後指導を行った。保護者の方からも多くの支援を受け、生徒の学びも深まり、自分の将来に対して関心を高めたり、桜江町への愛着を深めたりすることができた。	・今後は学校運営協議会を中心に、てごねっと石見、市教委、各地域のまちづくり協議会との連携を強化していく。育てたい生徒像を保護者や地域の方と共有し、協働しながらふるさとへの愛着と誇りの醸成を図り、キャリア教育の推進に努めたい。

令和6年度 桜江中学校学校評価 振り返り

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策			自己評価	改善の方向性
			だれが	いつ	どのように具体的に取組むか記入	達成状況	
(5) 信頼される学校づくり	チーム力ある組織づくり	・役割分担を明確にし組織的にチームワークよく取り組んでいる。	全職員	年間	・校務分掌を活用し、全員が組織的に取り組めるよう役割を明確にする。 ・企画会や職員会議を計画的に行い、報告、連絡、相談の体制を推進する。	・各分掌で起案し、早期に動く体制を作ったり、計画的に企画会・職員会議を実施したりする中で、報告・連絡・相談を徹底する組織作りを推進した。	・引き続き、報告・連絡・相談できる組織作りを推進していくとともに、職員の負担を減らすためにICTを積極的に活用する。
	安全点検・整備による教育環境の保全	・定期的に安全点検をし、環境整備をしている。	全職員	年間	・学校施設の安全点検を月1回行い、安全を優先し、市教委と連携して速やかに対応する。 ・PTAと連携し環境整備を行う。	・月ごとに全教職員で安全点検を行い、早めの修繕や市教委への連絡を行い教育環境の保全に努めた。 ・PTA環境奉仕作業を年に2回実施し、その後保護者とともに校舎や通学路についての安全点検を行った。	・今後も定期的な安全点検を行い、市教委と連携しながら、迅速な対応をして生徒の安全確保を行いたい。
	教職員の資質・能力の向上	・教育的ビジョンをもち、常に指導力の向上に努めている。	全職員	年間	・全教職員による授業公開、各種研修を計画的に実施し、教育課題に即した校内研修の充実を図る。	・情報活用能力の育成を目指し全教職員がICTを活用した授業公開を行った。必要に応じて市教委や教育事務所に訪問指導を依頼し、研修を受けた。	・今後も新たな教育課題に向けて、学び続ける教職員であるよう研修の場を計画的に設けていきたい。 ・生徒につけるべき力の育成を目指し、ICTを活用して個別最適な学びと協働的な学びの調和のとれた授業改善に努める。
	学校評価を活用した教育活動の実施・改善	・学校の取組についての評価や意見をもらい、組織的に受け止めている。 ・学校評価から取組の成果と課題を整理し、課題解決を図るための教育活動を実施している。	全職員	年間	・評価計画に基づき、生徒、保護者、職員にアンケートを実施する。その意見や結果について職員間で協議し、評価を行う。 ・評価から出た課題や改善点を明確にし、よりよい教育を実践する。	・アンケートを計画通りに実施し、その後全教職員で結果を共有した。そして課題を共有し、改善点を検討する場を設けた。	・分掌部会の実施回数を増やし、実情に合った効果的な教育活動がすすめられるようにしたい。